

NPO 法人京阪総合カウンセリング 事務局だより

2025 年 7 月

2025年度の総会のご報告

会員の皆様、今年も総会にご協力ご参加いただき、活動報告や活動計画についてご理解・ご支持をいただき本当にありがとうございました。今年で24年目の活動に入りますが、今年度も会員の皆様の『心の拠り所』として存在していけるように努力を重ねてまいります。また、臨床心理学の普及にむけて心理学の研究も深め、日常生活の心理的問題の軽減や予防、病理の改善にむけて地域の皆様に貢献してまいりたいと思っています。

心からご理解とご支援に感謝申し上げます。



総会終了後、皆様と昼食会をさせていただきましたが、食事を共にした交流会で色々とお話ができる時間も楽しく過ごさせていただきました。

昨年の総会交流会では「ミドルエイジ・クライシス」の理論を紹介させていただきミドルエイジの心理的課題などについて参加会員の皆様とともに語り合う機会を設けさせていただきました。

特に心理学やカウンセリングを学ぶ者にとって、自分自身の人生の充実と地域社会への貢献との関係性についてグループで話し合うことができ、良い交流会だったとのご意見を沢山いただきました。

今年度は5年ぶりに「三家クリニック」院長の三家先生をお招きして「精神科医療に取り組んできて今思うこと」をテーマにお話をいただきました。そのお話の中で『医の中の蛙』というお話があり、精神科医療において大事に思っていることは『医療は日常生活の場にある』という話がありました。そして、医者が医療現場のみを重要視した取り組みをすることの危険性についてお話をいただきました。

ここには、カウンセラーにおいても同じ課題があることを考えさせられました。カウンセリングもカウンセリングしている場だけでなく『相談者さんの置かれている生活の場（境遇など）』を理解することも大切な取り組みとなります。そして、相談者さんは日常生活での課題をカウンセリングの場にも持ち込んで伝えてきていることを新たに考えさせられました。

三家先生のお話を聞かせていただいて、皆様も様々な感想があると思いますが、私たちは学んだことを実践者として日常生活の人間関係においても応用して『生きた学び』としていきたいと思っています。

今後も、NPO 法人京阪総合カウンセリングは『支援することは、支援される環境づくり』ということを中心にしっかり留めながら、これからも30年、40年、50年と活動を継続し、少しでも安心して暮らしていける環境づくりを目指して小さな努力を積み重ね、会員の皆様とともに歩み続けてまいりたいとおもいます。

最後に、アンケートによる暖かいメッセージや応援のお言葉を沢山いただき、心から感謝申し上げます。これからもなお一層頑張ってまいりますので、今後も「ご支援、ご協力」を宜しくお願い申し上げます。

理事長 原川正慶

